
黒の組織との最終決戦！

真音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒の組織との最終決戦！

【Nコード】

N1429M

【作者名】

真音

【あらすじ】

ある日、コナンと哀は、2人の謎の少女と出会う。少女達の名前は、『工藤 舞』と、『佐伯 琴葉』。舞の正体は、なんと、黒の組織の幹部コードネーム・『ベルモット』。彼女は、自ら飲んだ『アポトキシン4869』によって、体が幼児化してしまった。そして、琴葉の正体は……。

琴葉は、コナン達と出会って数時間後、意識を失い、倒れてしまふ……。数週間後、意識は戻るが、そこには、以前の琴葉は、もう、いなかった……。何が、琴葉を変えてしまったのか……。

0・2人の紹介

工藤 舞

今回、現れた、謎の少女の1人。その正体は、黒の組織の幹部であり、『あの方』のお気に入りである、『コードネーム・ベルモット』だった。

舞は、なんと、哀と同じで、自分から『アポトキシン4869』を飲んで、体が幼児化してしまったのだ。

そして、虚弱体質になってしまい、大雨の中、高熱のため、阿笠邸の前で倒れてしまった。

彼女は、なぜ、『アポトキシン4869』を飲んだのか。その理由とは……。

佐伯 琴葉

今回、現れた、謎の少女の1人。

年齢：5歳。

特徴：（仮の姿）肘までの長さの黒髪に、青い瞳、

（真の姿）腰までの長さのアイスブルーの髪と青い瞳が特徴。

体質：病弱。1年に10回以上もの入退院を繰り返し、体重10キロとなってしまった。

持病：喘息と、重い心臓病を、患っている。余命わずか……。

性格：冷静沈着。笑顔も、ほとんど見せない。

正体：彼女の本名は、『マアン・オーシャニアン』。伝説の一族『オーシャニアン一族』の末裔であり、古代兵器『オーシャン』を、復活、発動、制御することができる、『選ばれし子』のため、黒の組織に狙われている。『NO・001』と呼ばれる兵器化された少女。魔法使い。彼女の顔から、笑顔が消えたのは、1歳の時。それ

から4年間、彼女の笑顔を見た人はほとんどいない。過去の彼女の身に、何が起こったのか。そして、コナン達は、琴葉^{マアツ}の笑顔を取り戻すことができるのか……。

プロローグ・ベルモットの幼児化 琴葉（マアン）との出会い

ある日のこと、ベルモットは、組織のアジト地下1階の研究室にいた。そこで、彼女がバッグの中から取り出したのは、『アポトキシン4869』だった。その後、ベルモットは、自ら『アポトキシン4869』を飲み、体が幼児化してしまった。そして、当時、風邪を引いて寝込んでいた、^{マアン・オーシャン}琴葉を連れ、ある2人の人物に会いに行くため、大雨の中、組織のアジトを抜け出し、米花町に向かっていった。

しかし、体力まで子供になっていて、その上、『アポトキシン4869』の副作用で、虚弱体質になってしまったため、^{ベルモット}舞は、琴葉を道連れに阿笠邸の前で、倒れてしまった。

さて、2人の運命は……。

コナン・哀との出会い・再会まで、あと、数時間……

1・2人の少女との出会い

舞、琴葉が、阿笠邸前で倒れてしまつてから、2時間後、コナンと哀の2人が下校中に、阿笠邸前で倒れている2人の少女を見つけた。どうやら、コナンは偶然、阿笠邸に用があつて、哀と一緒に帰つていたらしい……。

コナン・哀

「!!!!」

コナン「おい、大丈夫か？しつかりしろ！」

哀 「駄目ね……。高熱で、意識を失っているわ……。」

コナン「何！」

哀 「とにかく、すぐに博士に知らせましょう。」

コナン「ああ……。あれ？こいつ、どこかで見たことがあるような……。」

哀 「？」

コナンの様子に異変を感じながらも、哀は急ぎ足で阿笠邸の中に入つて行つた。続いて、哀を追うように、コナンも阿笠邸に入つて行つた……。そして、コナンと哀の話聞いた博士は、少し驚きながら

も、家の外へ行き、2人の少女を抱きかかえ、家の中へ戻つてきた。その後、お風呂に入らせてもらい、服を着替えさせてもらい、哀の

作った薬を飲んだ(？) 2人の少女は、ベッドに寝かせられ、ベッドの上で、1人(舞)は、静かに寝息を立てていた。そして、もう1人(琴葉)は、肺炎を起こす寸前だったので、しばらくの間、往診に来た新出先生の新作を受けていた。どうやら、舞は、すでに診察が終わっていたらしい……。

そして、3日後、舞の熱が下がり、その4日後に琴葉の熱が下がった。そして、コナン達は、2人の少女の名前、正体を聞くことにしたそうだ……。

コナン「お前らに質問がある。お前たちの名前は、何ていうんだ？そして、お前らは、何者なんだ？」

舞「面白い質問ね。いいわ、教えてあげる。いいでしょ、琴葉ちゃん。」

琴葉「はい、舞さん。」

舞という少女の言葉に、琴葉と呼ばれた少女は、表情1つ変えずに答えた。

舞「私の偽名は、『工藤 舞』。私は、貴方達のことをよく知っているわよ。」

コナン・哀・博士

「??？」

舞「私の正体は、黒の組織の幹部であり、『あの方』のお気に入り。コードネームは、『ベルモット』……。シエリー、貴方のが作った『アポトキシン4869』を、飲んだのよ……。」

コナン・哀・博士

「!!!!!!」

舞 「驚いたでしょう（笑）。さあ、琴葉ちゃん、貴方も正体を、教えてあげたら？」

琴葉 「はい……。私の偽名は、『佐伯 琴葉』。本名は、『マ
アン・オーシャン』。5歳です。私・
・・」

舞 「琴葉ちゃん、疲れたんじゃないの？」

琴葉 「えっ……」

舞 「凶星みたいね……。休んできたら？」

琴葉 「はい……。」

そうして、琴葉は哀に連れられて、寝室に入って行った……。

舞 「ごめんなさいね……。彼女、最近、体調が良くないみたい
いで……。琴葉ちゃん、喘息と重度の心臓病を患っていて、余命
わずかって言われているらしいの……。」

コナン「そうだったのか……。それにしても、お前（舞）が『ベ
ルモット』だということには、驚いたな……。」

舞 「そう……?」

コナン「それで、お前ら、これからどうするんだ？」

舞 「そうね……、どうしようかしら……。」

哀 「琴葉ちゃん、いえ、マアンちゃん、寝かせてきたわよ……。」

コナン「そうか……。ありがとうな、灰原……（笑）。」

哀 「（ノノノ）……。でも、なぜ貴方が『アポトキシン4869』を、飲んだの？」

舞 「組織が、いやになったからかしら……。」

コナン・哀

「……（苦笑）」

コナン「（おい、おい、それだけの理由で……）」

舞 「深くは、聞かないで頂戴。そのうち、話すから……。マアンちゃんの過去とかも……。」

コナン「そうか……。んっ、待てよ……。と、いうことは、まさか、お前らも……。」

舞 「組織に命を狙われていることになるわね……。」

コナン・哀・博士

「……」

博士「じゃあ、しばらくの間、わしの家におるかの？わしいんじゃが……。」

そう言つて、ちらりと哀のほうを見た。

コナン「おれも、いいぜ。その代わり、しばらくの間、おれも、博士の家で、過ごさせてもらつぜ……。」

博士「分かった。哀君は、どうかの？」

博士がそう言つた後、コナン・博士・舞の3人が、哀のほうを見た。

哀「はあ……どうせ、マアンちゃんがあの調子じゃ、追い出そうにも、追い出せないでしょう。私も、いいわよ。そのかわり、条件として、近いうちに2人共、検査のために病院に行つてもらうわよ。まあ、ついていってあげてもいいけど……。」

舞「ありがとう……。」

コナン「じゃあ、さっそく、舞のために買い物にでも行くか……。」

哀「そうね……舞ちゃん、マアンちゃんの洋服も見に行きましょうか……。」

舞「そうね、暇つぶしには十分ね……。」

コナン「(おい、おい……)」

博士「じゃあ、行くかのう。」

コナン「おれ、残っておくよ。マアンのちゃんのためにもな……。」

哀 「あら、優しいのね……。」

コナン「（ハハハ……。）」

博士 「じゃあ、行ってくるぞ。」

コナン「ああ。」

そうして、博士・哀・舞の3人は、買い物のため出かけ、コナンは、寝室でぐっすりと眠っているマアンの付き人として、阿笠邸に残った……。

（つづく）

1・2人の少女との出会い（後書き）

皆様、更新が遅くなってしまい、申し訳ありません……。いよ
いよ、お話、スタートです。琴葉マアの過去、舞ヘルモットの『アポトキシン48
69』を飲んだ理由とは……。
次回に続きます……。。

2・最初の事件発生！・・・意識のない琴葉

博士・哀・舞ヘルモットが出かけている間に、事件は起きた……。琴葉マアンが高熱を発し、意識不明の状態となってしまった。

コナン「おい、琴葉マアン、しっかりしろ！」

コナンの必死の呼びかけにも反応せず、ぐったりとしていて、呼吸も苦しそうな状態の琴葉マアン……。ただならぬ様子に、コナンは救急車を呼び、出かけている3人にも、すぐに帰ってくるように、連絡をした。

コナン「おい、灰原。聞こえるか？」

哀「聞こえているけど……。どうかしたの？」

コナン「琴葉マアンが倒れた！」

哀「何ですって!!！」

博士「どうかしたのか？哀君。」

哀「琴葉ちゃんマアンが、倒れたって……。」「

博士「何じゃと!!！」

舞ヘルモット「本当なの？」「

コナン「ああ。熱が40度あって、意識もないみたいなんだ……。」

呼吸もひどく苦しそうで……。」

哀 「それで？」

コナン「救急車を呼んだ。お前らも、すぐに帰ってきてくれ……！」

哀 「分かったわ。」

その後、電話を切ったと同時に救急車のサイレンが聞こえ、同時に哀達も帰ってきた。そして、琴葉^{ミアン}は、救急車で病院へと運ばれた……。

(つづく)

2・最初の事件発生！・・・意識のない琴葉（後書き）

マア、
琴葉が、倒れてしまった・・・。重度の心疾患を持つ彼女は、無事に生還することができたのか・・・。
次回につづく・・・。

3・琴葉の緊急入院・・・余命は、わずか3カ月

その後、^{マアン}琴葉は、病院に運ばれ、即入院となった……。ICUの中で、人工呼吸器を付け、点滴もたくさんつけられて、横たわり、意識のない^{マアン}琴葉……。担当になった先生（医者）は、^{マアン}琴葉の余命が、あと、長くて3カ月ということ告げる……。シヨックを隠せない、コナンたち……。しかし、^{ベルモット}舞のつぶやいた一言に、コナン達は、釘付けとなる……。

^{ベルモット}舞 「もうすぐ、孤独や、過去から、解放されるからね、^{マアン}ちゃん……。」

一同 「?????」

コナン「どういうことだ？^{ベルモット}舞ちゃん……。」

^{ベルモット}舞 「^{マアン}マアンちゃんは……、4年前、1歳のときに、両親を殺されたのよ……。自分の目の前で……。」

コナン・哀・博士

「……!」

(くじくじ)

3・琴葉の緊急入院・・・余命は、わずか3カ月（後書き）

微妙なところで、終わってしまいました・・・。

次回、琴葉マアの過去が明かされます・・・。

それにしても・・・、今回、短っ！！！！

4・琴葉（マアン）の過去・・・絶望と孤独の戦い

哀 「詳しく、話してくれる？舞ちゃん・・・。」

ベルモット舞 「マアンちゃんが、組織に狙われているっていうことは、もう、知っているわよね・・・。」

コナン「ああ・・・。」

ベルモット舞 「4年前、マアンちゃんの両親は、組織のメンバーに、惨殺された・・・、切り刻まれたマアンちゃんの両親の遺体は、その後、跡形もなく、燃やされた・・・。すべて、マアンちゃんの目の前で、行われた・・・。」

一同 「・・・。」

ベルモット舞 「その後、マアンちゃんは、辛いことも、悲しいことも、1人で乗り越えてきた・・・。たぶん、人に頼るということを、知らないと思うわ・・・。」

一同 「・・・。」

ベルモット舞 「ところで、なぜ、マアンちゃんが狙われていると、思う？」

コナン「・・・、分からねえ。」

哀 「なんで？」

ベルモット舞 「マアンちゃんは、世界で、最も恐れられている古代兵器。」

オーシャン』を、復活、発動、制御することが、できる、『選ばれ
し子』なのよ……。』

「同」「!?!?!」

(くくく)

5・琴葉（マアン）、覚醒……ついに目覚めた、『選ばれし子』

マアン 琴葉が倒れて、数週間後……、マアン 琴葉の容体は、徐々に回復していった。そして、ある日……

ヘルモット 舞「……………」

ヘルモット 舞は、一言も話さないまま、じっと、マアン 琴葉の姿を見ていた……。

コナン「舞ちゃん、マア、琴葉ちゃんは、まだ目を覚まさないのか？」

ヘルモット 舞が振り返ってみると、コナン・哀・博士がいた。

ヘルモット 舞「ええ。先生が言うには、近々、目を覚ますって、言っていたけど……。」

コナン「そうか……。」

哀「舞ちゃん、喉乾いたでしょ……。飲み物、買ってくるわ。」

そう言っつて、哀が病室を出て行くとした、その時……。

マアン 琴葉「んっ……、ここは……?」

一同「!?!?!」

遂に、マアン 琴葉が、目を覚ましました。

舞ベルモット 「よかった……。(泣)」

4人が安堵したのもつかの間、次に、琴葉ミアンの発した言葉は、衝撃の言葉だった……。

琴葉ミアン 「貴方達、誰ですか……？私を、悪の組織に、渡そうと思っ
っているんですか？」

一同 「!!!!」

コナン「何を言っているんだ？マア、琴葉ちゃん……。」

琴葉ミアン 「琴葉って、誰ですか？」

コナン「え？」

琴葉ミアン 「私は、『NO.001』と呼ばれる、『古代兵器』、『コード
ドネームは、『ミアン・オーシャン』……。」

そう言った琴葉ミアンの姿は、普段の肘までの長さの黒髪の姿から、腰
までの長さのアイスブルーの髪の姿に、変わっていった……。

一同 「……………!!!!」

琴葉ミアンの姿の変化に、驚きを隠せないコナンたち……。

コナン「ミアンちゃん、嘘だろ……。」

琴葉ミアン 「今まで、よくしてくれたみたいで……。ありがとう……。」

いました……。でも、「こじでお別れです。さようなら……。」

一同「!?!?!」

そう言った琴葉^{マア}は、最後に一筋の涙を流し、去って行った……。コナン達は、ただ、呆然とその姿を見守ることしか、できなかった……。

（つづく）

5・琴葉(マアン)、覚醒・・・ついに目覚めた、『選ばれし子』(後書き)

遂に、マアンが、目覚めました・・・しかし、琴葉としての記憶を失っていて・・・この先、どうなるんでしょう？

次回、お楽しみに！

6・琴葉(マアン)の心境・・・全ては、仲間を守るため・・・(前書き)

お久しぶりで〜す¥(^^)/皆さん、お元気ですか？

いつも、私の駄目文をお読みいただき、誠にありがとうございます。
す。

今回のお話は、^{マアン}琴葉を思う、^{ヘルモット}舞の気持ちメインです。

駄目駄目な駄目文ですが、お読みいただければと思います。

これからも、『黒の組織との最終決戦』も、他の小説も、どうぞ
よろしく願います。

マアンちゃんは、1人で組織のアジトに乗り込もうとしているんだと思うわ……。」

一同 「1人で!!!」

あまりの驚きに、ここが病院だということも忘れ、大声になってしまったコナン達……。あわてて、声を小さくする。

哀 「嘘でしょう……。1人で行って、助かるわけないじゃない……。。」

^{ヘルモット}舞 「大丈夫……。彼らに、マアンちゃんは、殺せないわ……。」

なぜなら、彼女は、『古代兵器』を復活させられる、たった1人の人間なんだから……。。」

コナン「そうか……。。」

哀 「でも、危険なことに変わりはないわ。一応、私たちも、マアンちゃんのもとに向かいますよ……。舞ちゃん、場所、分かる?。」

^{ヘルモット}舞 「ええ。」

コナン「よし、さっそく、準備していか……。。」

一同 「オッ!!!」

……。そうして、コナン達は琴葉クマノを捜すため、結束を固めたのであった……。

(^ J J)

6・琴葉(マアン)の心境・・・全ては、仲間を守るため・・・(後書き)

リクエスト、感想、駄目だし等、ありましたら、感想の方による
しくお願いいたしますm()m

7・悲しみに揺れる心・・・琴葉（マアン）、涙の決意

コナン達が、出発の準備をしている頃、^{マアン}琴葉は、アジトの前にいた・・・。

^{マアン}琴葉 「この戦いで・・・、全てが終わる・・・。私が・・・犠牲になれ・・・ば・・・、皆・・・は・・・、苦しま・・・なく・・・て・・・済む・・・んだ・・・。」

^{マアン}琴葉は、息も絶え絶えにつぶやいた・・・。

^{マアン}琴葉 「もう・・・、誰も・・・死なせ・・・ない・・・。もう・・・、誰かが・・・、傷つくのは・・・、嫌・・・。」

（皆、嘘ついて、ごめんね・・・。でも、こうするしかなかった・・・。皆のために、命をかけられるのなら、これほどうれしいことはない、と思うの・・・。それに、私1人の犠牲で済むのなら、それが、1番いい・・・。皆、今までありがとう。そして、さようなら・・・。）（泣）

それは、^{マアン}琴葉の涙の決意だった・・・。意識の戻った直後だったため、かなりつらそうだが、彼女の決意は、固かった・・・。

そして、^{マアン}琴葉は、アジトの中に入っていった・・・。

（つづく）

7・悲しみに揺れる心・・・琴葉（マアン）、涙の決意（後書き）

短っ!!!

でも、^{マアン}琴葉の決意は、結構涙ものでした・・・。次回は、どうなるでしょう・・・？

それでは、次回も、おたのしみ〜。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1429m/>

黒の組織との最終決戦！

2010年12月30日06時47分発行